

# 「ほんのちょっとの勇氣と思いやり」

校長 田邊 泰

ある朝、犬の散歩をしていたところ、ごみの集積場所に散乱していた生ごみを、一生懸命に片付けている人がいました。多分、近所の人朝早くゴミを出し、ネットをしっかりとかけていなかったから散乱したのでしょう。他人の生ゴミを黙々と掃除をしている姿を見て、「ここを通る人は、嫌な思いをしないで済むな。」と思いながら、「有難うございます。」と会釈して、その場を離れました。

学校でも、一生懸命に掃除をしてくれる生徒の姿を見ることが出来ます。だから、私たちは、気持ちよく学校生活を送ることが出来るのです。その一方で、残念ながら、いい加減に清掃している姿を見かけることがあります。

先日の「教育講演会」でのことです。講師として来校して下さった3人の方とも「岸中の生徒さんは、しっかりと挨拶が出来ますね。」と大変驚かれていました。私も正門付近で、皆さんの登校を見守っているときに、ほとんどの皆さんは、とても気持ちの良いあいさつをしてくれます。私も嬉しくなります。しかし、恥ずかしいのでしょうか、こちらがあいさつをしても、あいさつが出来ない人もいます。

この違いはどのように起こるのでしょうか。それは、清掃もあいさつも「自分を含めて、誰かに対する思いやり」を持っているか否か、の違いではないかと思えます。どのような人であっても、「良いことをしたい、良い人間になりたい」という思いを持っているのだと言われている。それを実行するための、「ほんのちょっとの勇氣と思いやり」を持てるかどうかで行動が変わってしまうようです。

**普段見逃しそうな、そんなちょっとした行いが、毎日の生活をより良くしていくのでしょうか。人からされてうれしいことは、ためらわずに自分からもしてあげたいものです。**

**そのために、「ほんのちょっとの勇氣」を持って、「思いやりの心」を発揮してみませんか。**

